

梅谷忠勇先生 略歴



<生年月日>

1944年3月3日

<学歴>

1968年 3月

東京教育大学教育学部 卒業

1968年 4月

東京教育大学大学院教育学研究科修士課程 入学

1970年 3月

東京教育大学大学院教育学研究科修士課程 修了

1970年 4月

東京教育大学大学院教育学研究科博士課程 入学

1973年12月

東京教育大学大学院教育学研究科博士課程 単位取得満期退学

1977年 1月

教育学博士（東京教育大学 教第56号）

<職歴>

1974年 1月 千葉大学教育学部 講師（至 1976年12月）

1976年 1月 千葉大学教育学部 助教授（至 1992年4月）

1982年 4月 千葉大学大学院教育学研究科学校教育専攻障害児教育分野担当（至 2005年3月）

1992年 4月 千葉大学教育学部 教授（至 2009年3月）

1996年 4月 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科博士課程発達支援講座担当（兼任）（至 2009年3月）

2003年 8月 千葉大学 学長補佐（至 2004年7月）

2005年 4月 千葉大学大学院教育学研究科特別支援専攻担当（至 2009年3月）

2009年 4月 明星大学人文学部心理・教育学科 教授（至 2010年3月）

2009年 4月 明星大学大学院人文学研究科博士前期・後期課程教育学専攻（通信課程）担当（至 2014年3月）

2010年 4月 明星大学教育学部教育学科 教授（至 2014年3月）

（上記の期間中に、横浜国立大学、茨城大学、東京学芸大学、秋田大学の各教育学部で非常勤講師を併任）

<学会活動等>

1968年 4月 日本教育心理学会会員（至 現在）

1970年 4月 日本特殊教育学会会員（至 現在）

（2004年1月～2006年12月 同学会常任理事・編集委員長、2006年12月～

2009年11月 同学会理事長等)

1971年 4月 日本心理学会会員 (至 現在)

2006年 7月 障害科学学会 (至 現在)

<社会における活動等>

1976年 5月 市川市中心身障害児就学指導委員会委員 (至 1978年3月)

1979年 4月 千葉市中心身障害児児童生徒就学指導委員会委員 (至 2009年5月)
(1992年4月～2009年5月 同委員会委員長)

1989年 4月 千葉県心身障害児就学指導委員会委員 (至 2003年3月)
(1993年4月～2003年3月 同委員会委員長)

1995年 9月 千葉県障害児教育検討委員会副委員長 (至 1997年3月)

1996年 8月 千葉県養護教育センター運営協議会会長 (至 2008年10月)

1997年 6月 第2次千葉県障害児教育検討委員会副委員長 (至 1999年3月)

1998年 1月 文部省学術審議会専門委員 (至 2000年1月)

2000年 7月 千葉県特殊教育センター協議会委員 (至 2002年3月)

2001年 4月 千葉県障害児教育検討委員会委員長 (至 2003年3月)

2003年 7月 千葉県特別支援教育の在り方についての検討会議座長 (至 2006年3月)

2003年 7月 千葉県総合教育センター協議会委員 (至 2006年6月)

2004年 1月 (独立行政法人日本学術振興会) 科学研究費委員会専門委員 (至 2005年12月)

2004年 5月 千葉市特別支援教育推進体制モデル事業調査研究運営会議委員 (至 2005年2月)

2004年 6月 千葉市における特別支援教育の在り方に関する検討会議委員長 (至 2008年3月)

2006年12月 千葉県特別支援教育推進基本計画策定協議会委員 (至 2007年3月)

2006年12月 (独立行政法人) 国立特別支援教育総合研究所運営委員 (至 2009年11月)

2007年 2月 千葉市発達障害者支援体制整備検討委員会委員長 (至 2008年3月)

2007年 8月 (独立行政法人日本学術振興会) 特別研究委員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査員 (社会科学領域) (至 2008年7月)

2008年10月 千葉市教育委員会委員 (至 2012年9月)

<主な著書>

(1) 『講座 障害児教育 5障害児理解の方法』(共著) 1977年10月 福村出版

(2) 『精神薄弱教育の基礎理論と実践』(共著) 1978年4月 図書文化

(3) 『知能と弁別学習の研究』(単著) 1979年12月 風間書房

(4) 『精神薄弱研究の方法』(共著) 1983年3月 教育出版

(5) 『児童心理学ハンドブック』(共著) 1983年9月 金子書房

(6) 『精神薄弱児の心理 (改訂版)』(共著) 1984年4月 学芸図書

(7) 『障害児発達学研究』(共著) 1990年6月 文化書房博文社

(8) 『現代心理学25章』(共著) 1995年8月 八千代出版

- (9) 『知的障害児の発達と認知・行動』(共編著) 1998年10月 田研出版
- (10) 『知的障害児の心理学』(共編著) 2002年8月 田研出版
- (11) 『特別支援教育への転換—自治体の模索と試み—』(共著) 2003年8月 クリエイツかもがわ
- (12) 『図解 知的障害児の認知と学習—特性理解と援助—』(単著) 2004年3月 田研出版
- (13) 『特別支援児の心理学—理解と支援—』(共編著) 2006年3月 北大路書房
- (14) 『自治体から創る特別支援教育』(共著) 2006年12月 クリエイツかもがわ
- (15) 『改訂 知的・発達障害児の学習—心理と指導支援—』(編著) 20012年9月 田研出版

<主な学術論文>

- (1) 「精神薄弱児における概念達成の過程に関する研究—学習材料の抽象性の効果を中心として—」(単著) 1971年12月 教育心理学研究 (日本教育心理学会誌) 19巻4号
- (2) 「精神薄弱児の概念学習における言語的命名訓練の効果」(単著) 1971年12月 特殊教育学研究 (日本特殊教育学会誌) 9巻2号
- (3) 「精神薄弱児の弁別逆転学習に関する研究—概観と今後の方向—」1971年12月 (共著) 東京教育大学教育学部紀要 18巻
- (4) 「精神薄弱児の弁別逆転学習に関する研究—反応時間を中心とした検討—」(単著) 1973年9月 教育心理学研究 (日本教育心理学会誌) 21巻3号
- (5) 「精神薄弱児の学習過程の発達に関する研究—弁別任意移行における反応様式の検討—」(単著) 1975年12月 千葉大学教育学部研究紀要 24巻
- (6) 「精神薄弱児の弁別学習における手がかり機種の発達に関する研究」(共著) 1977年12月 教育心理学研究 (日本教育心理学会誌) 25巻4号
- (7) 「精神薄弱児の弁別学習における媒介機能研究の展望」(単著) 1975年12月 千葉大学教育学部研究紀要 29巻
- (8) 「精神薄弱児・者の知能構造に関する研究—WISC知能診断検査による検討—」(共著) 1981年12月 特殊教育学研究 (日本特殊教育学会誌) 19巻2号
- (9) 「Discrimination shift learning and response inhibition of moderately and severely mentally retarded and nonretarded children」(共著) Journal of Mental Deficiency Research (英国王立学会誌、英文) 1985年9月 Vol.29 Part 3
- (10) 「Verbalization of appropriate and inappropriate cues in discrimination reversal learning and response inhibition by moderately mentally retarded and nonretarded children」(共著) Journal of Mental Deficiency Research (英国王立学会誌、英文) 1989年12月 Vol.33 Part 6
- (11) 「重度精神薄弱児・者の意志交換技法の開発に関する研究」(共著) 1985年3月 厚生省心身障害研究報告書
- (12) 「重度精神薄弱児・者の意志交換技法の開発に関する研究—相互交渉の促進・援助とその包括的プログラム—」(共著) 1987年3月 厚生省心身障害研究報告書
- (13) 「海外在住及び帰国子女における障害児の教育支援システムに関する研究」(共著) 平成6年度科学研究費補助金研究成果報告書
- (14) 「中度精神遅滞児の弁別逆転学習における過剰訓練の効果」(共著) 1996年5月 特殊

教育学研究（日本特殊教育学会誌）34巻1号

- (15) 「精神遅滞児の弁別逆転移行学習におよぼす事前次元分類訓練および分類・言語化指導の効果」(共著) 2000年2月 千葉大学教育学部研究紀要 48巻
- (16) 「施設に居住する知的障害者における要介助度の加齢変化—更生施設における10年間の日誌の分析—」(共著) 2000年3月 心身障害学研究 24巻
- (17) 「知的障害児の問題解決行動に及ぼす手がかり教示の効果」(共著) 2002年2月 千葉大学教育学部研究紀要 50巻
- (18) 「Casual analysis of attitude formation towards person with intellectual disabilities」(共著) 2005年3月 Japan Journal of Special Education（日本特殊教育学会誌、英文論文特集号）Vol.42
- (19) 「知的障害者に対する態度に関する文献研究—態度の多次元的研究に焦点をあてて—」(共著) 2006年2月 千葉大学教育学部研究紀要 54巻
- (20) 「中・重度知的障害児の弁別学習研究における最近の動向」(共著) 2008年2月 千葉大学教育学部研究紀要 56巻

<その他>

- (1) 『学習障害児の心理と指導』(共訳) 1976年3月 日本文化科学社
- (2) 「知的障害児教育におけるコンピュータ利用の現状と課題に関する研究—全国的な悉皆調査を通して—」(共著) 2002年3月 平成13年度文教協会研究助成による調査研究報告書

梅谷忠勇教授のご定年によせて

— 知的障害児への想いとご研究 —

星 山 麻 木

梅谷忠勇先生は、1944年 茨城県にお生まれになり、東京教育大学大学院博士課程で特殊教育学を専攻され、千葉大学教育学部教授をご退官なされた後、明星大学人文学部心理教育学科教育学専修の教授としてご着任なさいました。2010年度に開設した明星大学教育学部では、今年度、初めて一期生が卒業いたします。この間、明星大学は教育学部に特別支援教員コースを設けるなど、教育学部への発展期でした。そのなか新たに明星大学教育学部教授としてご着任なさり、多くの特別支援教育の優れた研究者や指導者の育成にご尽力なさいました。高度なご研究など多岐にわたっており、この度先生のご退職に当たり、長年にわたるご貢献と特別支援を必要とする子どもたちへ想いとご研究に関してまして、敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。

梅谷先生に初めてお目にかかりました時より、知的障害について研究していらっしゃる先生であるからこそでしょうか、温厚なお人柄に惹かれておりました。そんな穏やかな先生を慕って、通信制大学院では、全国から、現職の先生をはじめとする様々な領域の方々のご研究に訪れていました。

梅谷先生は知的・発達障害の学習についてのご研究がライフワークで、そのご専門の著書は田研出版株式会社より出版されています。障害児の心理と教育のご研究一筋に30年余り携わってこられました。特に知的・発達障害の学習については、研究検討会を1カ月から2カ月に1回継続されるなど、意欲的に関わってこられ、その成果をご著書として、まとめておられます。そのなかで、知的障害児の認知的と社会的学習過程について、これら二つの面の学習過程の特徴を知ることは、知的障害の中核状態である「知的障害」と「適応行動の障害」を理解することであると述べておられます。

明星大学においては、学部学生の教育に精力的に関わってくださいました。特別支援教員コースの学生1年生から4年生まで共に学ぶ合宿など何度もお付き合いくださり、夜遅くまで、学生と交流してくださいました。また体育館で行われる運動を通じた学生間交流などの機会に颯爽と運動着でお出ましになり、合宿では、学生と一緒に卓球などもお付き合いくださいました。

平成25年8月には、明星大学にて、日本特殊教育学会が開催され、会長をお務めになられました。全国から先生方をお招きし、炎天下のなか、学生やスタッフを率いられ、盛会のうちに無事、終了することができました。学生スタッフも頑張ってくれましたが、なにぶん不慣れであるが故、先生にはご苦勞をおかけする結果になってしまいました。しかしながら、大学のスタッフ、学生、一丸となって大きな学会を開催することが出来たのは大

変良い思い出となりました。これも梅谷先生が、明星大学に来てくださったからこそ成し得たことと存じます。現在、特別支援は課題が多く、さらに梅谷先生の様々なご経験と叡智をご教授いただきたいと思います。今後ますますのご活躍とご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げたいと思います。